2015年度 第3回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

1 日　時　　平成28年2月5日(金)19:00～20:30

2 場　所　　静岡市クリエーター支援センター

3 出 席 者　　多文化共生懇話会委員 12名

エリック ハナワルト、王川絹子、小田エリーザ、烏仁、カイン モン イー、申 泰子、高畑 幸、土屋 真理、デレゲルチチグ、ニアズ アハメド、朴 政浩、吉野 恵津子

市事務局、静岡市国際交流協会

4 傍 聴 者　　なし

5 次　第　　(1)開会

(2)意見交換

「日本人住民と外国人住民の皆さんが、ともに暮らしていく上での外国人の生活上の問題」について

(3)事務局から

(4)閉会

○事務局

前回の会議で皆さんからいただいた意見を、関係する部署に再確認をしましたので、いくつか報告させていただきます。

まずは、デレゲルチチグ委員から「アルバイトを長時間したことにより、市民税が上がったが、租税条約により、市民税の減免制度があるということを知った」という話がありました。日本はアメリカ・中国をはじめ、世界の56カ国と二国間租税条約を締結していますが、その主な役割は、二国間での「二重課税の回避」です。例えば中国と日本の間の租税条約は、中国人の留学生の場合、学生期間の所得には課税されないということになっています。ケースによっていろいろ内容が異なりますので、お住まいの市税事務所にお問い合わせをいただけると助かるというお話でした。

続いて、カイン委員からも税金について「多く、長い時間アルバイトをしている友人の方が、納める税金が自分より少ないというケースがあった」という発言がありました。税金というのは収入に基づいて計算されますが、留学生の方の場合、働く時間数に制限があります。その中で、高い税金がかかるということは考えられませんが、最大で、週28時間勤務するということが許可されています。例えば、週28時間勤務をする場合、皆同じ税額になるはずですが、先ほどの租税条約というものがあり、これもケース

により異なりますから、友人の方と比べて「少し自分は税金が多いな」と思うようでしたら、友人の方と一緒に、市税事務所に来ていただければ、その違いを説明することができます。逆に一人で来られると、たとえ友人であっても、内容が個人情報ですので、比較して説明ができないことになっています。一人で来た場合はどうしても、本人だけの説明になってしまうそうです。

最後に、吉野委員から意見があった外国人児童・生徒の日本語学習支援についてですが、静岡市の教育委員会が日本語指導を担当しており、通級指導・訪問指導・適応相談という3つの柱で支援を行っています。それ以外に、通級指導教室であれば、授業参観や懇談会、あるいは、教員研修の日本語指導担当者会で、各学校側の受け入れや支援体制の強化を図っています。これにより、教育委員会への相談・要請が増えているということです。また、高校進学ガイダンスも行っています。

また外国人の児童・生徒の日本語能力と適正さを確認するために「話す・読む・書く・聞く」の4技能を測定する方法「DLA」が平成26年度に文部科学省から発表され、外国人児童・生徒等を対象にこの調査を実施しています。各学校や日本語指導員と児童生徒の日本語能力について情報共有し、その後の指導方針を検討する際の参考にしています。

日本語の訪問指導に関して、現在の市教委の対応予算から 1人10時間程度と、指導時間数が十分でないという課題があります。この課題に対し、平成26年度より、各学校に配当している「民間教育力活用事業」の予算を活用して、民間団体の協力を得て、継続的に日本語指導ができるようにしています。「民間教育力活用事業」の日本語指導についての活用実績は、平成26年度９件。平成27年度８件です。日本語指導センター事業の訪問指導以外に、各学校の要請に応じて、民間団体に 20～40時間程度支援していただいています。

それ以外にも学生スクールボランティア事業で、静岡大学や県立大学の学生ボランティアが、日本語や教科学習の指導・支援及び生活への適応のための支援を行っています。最近では大学の留学生もこの活動に参加し、指導だけでなく母国語での相談等の対応も兼ねています。

教育委員会では、今後の更なる日本語支援の拡充を目指し、国の日本語指導に関する助成制度を申請しています。これが認可されれば、更に訪問指導等の課題を改善することができると思われます。しかしながら、各事業とも予算に限界があり、十分に学習時間が取れない場合もあることは課題であると充分認識しています。そのため、国の補助金を申請しているという経緯があります。

○事務局

質問等ありますでしょうか。それでは多文化共生懇話会実施要綱第7条2項により、会長が議長を務めることになりますので、会長に進行をお願いしたいと思います。それでは土屋会長、よろしくお願いします。

○土屋会長

よろしくお願いします。議題は「日本人住民と外国人住民の皆さんが、ともに暮らしていく上での外国人の生活の問題」についてです。どんな問題があるか、またその問題を解決するために、外国人

住民も協力できることがあれば、一緒に発表してください。1人1つずつお願いします。今日は、吉野委員からですが、吉野委員は、これまで外国人の日本語に関することが多かったので、今までいろいろな外国人と接していることから、他の問題も聞きたいと思います。よろしくお願いします。

○吉野委員

前回は本当に日本語教育についてのお話をさせていただき、事務局にも色々調べていただきました。経験から、やはり一番大事なことはコミュニケーション能力だと思います。そうすると、どうしても日本語という方向にいってしまいますが、コミュニケーションという点でみると、清水区の市民は、多くが町内組織に入っていて、組長をやったり、回覧版を回したり、お葬式の手伝いにも出たりしていて、今まで防災訓練には大勢の外国人が参加しています。小・中・高校生は参加のハンコを貰って提出しなければならないということもあり、私たちと一緒に避難訓練をする中で、避難経路を歩いて、炊き出しをして、ご飯を食べて、ということが目にみえて「上手にできているな」と思ったのですが、どうも旧静岡市はそうでもないような感じを受けています。もっと町内組織に参加できたらいいのに、と思ってしまう。うちの地域は、いつも10月にお祭りがありますが、外国人の方もお祭りに出ていて、楽しくやっているものですから、「あまり活発でない」という様子がよく分からないです。私のいる日本語教室にもみんな親子で来てくれて、「昨日、今日は、こんなことがあったよ。インフルエンザで学級閉鎖になったところもあるんだよ。」という話をしてくれます。そういった会話をもっと気楽に町内の人とできるような体制にするには、私たちも声をかける、けれど外国人の方々にも気軽に声をかけていただきたいですね。それができるような雰囲気が旧静岡にはないのかな…。清水は昔からそういうことを、割とやってきた町なのかなと感じます。私は色々な人と接しているから感じることかもしれませんが。車に乗っている時も、外国人の方々や子供たちが手を振ってくれる。知らない人にはそんなことしないと思います。でも、私は日本語を教えている生徒たちに「人に会ったら『こんにちは』と言いなさい」と、会話のレッスンで言っています。外国人の立場からすると、日本人ってちょっと話しかけにくいところが、最初はあるのかもしれないので。

○朴委員

今日は、先月の毎日新聞の切り抜きを持ってきました。焼津の話で恐縮ですが、焼津は基本的にフィリピンの子どもが多いみたいですね。一昨日も偶然NHKを観ていたら記事にあった内容でした。日本語の問題に話が戻ってしまいますが、でも僕は日本語の問題って、どんな問題とも、切っても切れないものだと思います。色んな問題を討論しましょうって言っている時点で日本語を使っているので。だからどうしても離れられない問題だと思います。

この記事で紹介されている方は、一人でフィリピンの子どもたちを集め、宿題をさせているそうです。フィリピンの子どもたちに日本語を勉強させたいとやっているのですから、頭が下がりますし、素晴らしいことだと思います。この方は、自分の手、つまりボランティアでという形をとっていると思うんですが、一昨日のNHKを観た限りでは、国からのそういった補助とかはなく、地方行政からは、申請して許可がおりたら予算がとれる、となっているのですが、この仕組、どうなんでしょう。

日本という枠組と、静岡という枠組をそれぞれ見ていると、どんどん人口が減っていくことが予想されま

すよね。労働力が足りないから、各方面・各国から外国の方が来ている。僕なんかはオールドカマーなので、日本に生まれ、死んでいくけれども、僕から言わせると「ニューカマー」の人たちは、例えば日本にいるフィリピンの人たちは、国に帰ることなくずっと居るのか、もしくはフィリピンに帰るのか、ということについて、宙ぶらりんの人が多いですね。そういったところはとても難しく、日本という枠組に入り、地に足を付いてここで生きていくのか、それとも国に帰ってしまうのか、すごく曖昧で不確かなので、彼らに対して、どのような対応を国とか行政がとるべきか難しいところはあるのかな、と感じます。人それぞれ背負っているものが違うものですから、何とも言えませんが。

ですが、最終的には、多くの留学生のように通り過ぎるだけかもしれない、または、ここにずっと住む人たちであろうが、先ほど（吉野委員から）コミュニケーション能力について話がありましたが、やはりそれをとにかくクリアしないといけないんですよね。日本人が怖いとかじゃなくて、日本の人って最初はやっぱりとっつきにくいですけど、実際は、話したら良い人が多いですよね。ただ、壁が高いというか。その壁を取っ払っていくと、お互いだんだん近づいていけるのですが、そこまで行くのが大変です。先ほど「（人に）会ったら挨拶しなさいよ」と言ってましたが、挨拶はやっぱり「チャオ」じゃダメなんですよね。「おはよう」じゃなきゃ。「オブリガード」じゃなく、やっぱり「ありがとうございます」がいい。日本の場合は、すごく特殊ですが、識字率が 100％の国って世界でも何か国しかないです。北欧とか北米とかその程度です。だから字が読めない子ども、日本語以前に自分の国の言葉もわからない子供もいますが、そういう子どもたちはアイデンティティの形成が非常に難しい。こういったことについて、各国の特徴を知っている人たちが、話をできればなんて思うんですけども。僕は在日っていう立場でみていますけど、またニューカマーのシチュエーションは違うと思うので、今日はそういったことが一つ気づきとしてありました。

○土屋会長

ありがとうございました。続いてニアズ委員よろしくお願いします。

○ニアズ委員

静岡市のことですね、市民が異文化に触れられる街をつくりたいというところで考えると、コミュニケーションも大事ですが、その中で異文化を取り上げると、市民が、何ができるかってことが大事になってくると思います。静岡市では、有名な静岡まつりがありますが、皆がどこまで知っているか。実際、色々知っている人は少ないと感じています。また、なぜ外国人がその中（企画をする側）に入れないのか。例えば学校とかそういう施設や、団体にはチラシがいくと思いますが、外国人のために何もないんですよ。今回は 60周年で記念イベントなので、声掛けをして、静岡にいる外国人皆にもっと知らせてもらいたいです。「静岡って、こういう街です。」と、静岡の歴史ある街の PR にもなる。もっともっと彼ら、外国人に知らせることで、外国人が「静岡ってこんなおもしろいところなんだ」と、知ることが出来る。そうやってみると静岡まつりを知らない学生、留学生も含め、いろんな人たちを静岡まつりに巻き込むことができれば、もっとお祭り自体も盛り上がっていくと思うし、市民が異文化に触れることができる。

○土屋会長

ありがとうございました。次は、デレゲルチチグ委員お願いします。

○デレゲルチチグ委員

静岡の外国人留学生向けの支援ネットワークが充実していない点について。静岡が、なぜ外国人留学生を受け入れるのかということについて調べると、少子化問題と、高齢者問題があるため、外国人留学生に働いてほしいということがあると思います。また、静岡市はものづくりの街ということで、海外に進出する企業も多く、実際、外国人留学生はその懸け橋をしたいと思っています。2020年に日本でオリンピックを開催するということで、私もいろいろ情報を見たのですが、東京オリンピックの時に静岡県も外国人観光客を呼び込む努力をしています。その中で、外国語を母語としている外国人留学生はすごく役立つのではないでしょうか。過去の外国人留学生向けの支援事業について調べると、平成23年6月22日に設立した、外国人向けの支援ネットワークがあり、その正会員というのが静岡県における各大学で、行政会員の静岡県庁、そして賛助会員が国際交流協会などの団体です。本当に留学生と地域社会、地域企業といった、いろんな人がさまざまな場面で関わっている支援ネットワークですが、私の感じる問題は、「留学生の就職支援が少ない」ということです。神戸や大阪の、リクナビをみると支援講座や、企業訪問がいっぱいあります。静岡も過去には、その支援ネットワーク等が就職支援講座をやっていますが、年に1、2回程度でした。そして、講座をやっても、次に繋がっていないということも…。去年の8月頃、こういった外国人留学生の就職支援講座に参加し、3つの企業を訪問しましたが、なかなか企業側との話が進まず、時間が過ぎていく…というのが現実でした。確か、静岡の留学生は、1300人くらいいて毎年おそらく何百人と流出すると思いますが、静岡にずっと住んでいる留学生はやっぱり静岡で就職したいという気持ちが強くあると思います。他の県に行くのもけっこう不安があるけど、それでも、なかなか就職先が見つからず、静岡にいるか、県外に出なければいけないか考えることはとてもあります。そういった人たちへの、就職支援ネットワークをもっと充実させていただきたいと思います。

○土屋会長

どうもありがとうございました。次は高畑委員お願いします。

○高畑委員

先ほど、朴委員が話した焼津の新聞記事についてですがが、私たち県大もそういうことに協力していて、学生ボランティアを通じ子どもたちの宿題をみています。その新聞記事で紹介されている方は、その方自身は外国人支援の経験は全くないけど、過去に外国人の子どもがたくさん通う小学校のPTAの会長さんだったんです。それで、子ども達が通う小学校には外国人の子どもも多くいて、何かできないかということで始められた。こういうことは、一緒に近くに住んでいる人たちが、特に外国に興味あるとか、行ったことがあるとかよりも、ただ近くに住んでいて、自分たちの地域の課題として捉えているというところが大切だと思います。外国にルーツをもつ子どもがいて、何か勉強などをみてあげられたら、というように、同じ場所に住む人同士の、とても自然な心からの行動がいいなと思います。このようなことが、

多文化共生の地域づくりに繋がっていくのかな、と。例えば、いくつかの町内会には、多くの外国の方が参加している。そういう地域をモデル地域として多文化共生のまちということで、何らかの取組をやってみる。そして、例えば「○○賞」みたいに表彰する、ということをしたら、たくさんの人にその地域を知ってもらえる。また、その地域の活動に参加している人のやる気アップにもつながるので、そういうことができたらいいなと思います。

○申委員

お互い日本人と外国人も意思の疎通というか、そういうものを育ててくのが大事だと思います。私は、自分の地域で、隣近所の日本の方々と接触することが結構あり、日本の方と自分たち外国との間では結構良い関係をもっていると思うんですよね。それでも、私が考えてしまうのは、何かあった時、例えば昔、関東大震災があった時や、戦争の時、個々の日本人と外国人の間で、日頃いい関係をもてていたとしても、何か問題が起こった時に、結局、在日韓国人や朝鮮人が殺されたり、迫害を受けた過去があるんですよね。今だと、例えば東北の震災があった時、在日の韓国人なり、他の国の外国人の方たちが、そういう震災被害の中でも、日本の方々と一緒にお互い支え合ってきたという、良い例もあります。ただ、歴史的にみて、さっき言ったような負の部分もあるので、いつも私は「日本の方々はいい人ばかりなので今は、良い関係を結んでいるけど、この連携が、何かあった時にどうなるのかな」と考えてしまうことが、たまにあります。

例えば、今のヨーロッパがそうですが、難民の方々が迫害などにもあっています。国で難民を受け入れるという体制があっても、その国の人たちからすると、「自分の職が奪われてしまう」ということを思うと、今の立場に何かしら不安を抱えていたりする人たちは、難民を受け入れ難いと思います。そういうことを考えると、昔の関東大震災のようなことがあった時に、昔実際にあった、道端で尋問し、韓国人や朝鮮人だと分かると、捕まえ、ひどい拷問を与えたということが本当にないだろうかと、不安になります。本当に一部だと思いますが、震災で道端に倒れている人に、尋問し捕まえたという話を聞くと、怖いです。いざとなった時にどうなるのかなというのが気になりますね。

そして、他に気になることは、ヘイトスピーチです。静岡では聞いていませんが、都会の方、特に大阪などでは、結構ありますよね。その内容がインターネットに上がっているんですが、本当に恐ろしいです。今、県議会や市議会では、ヘイトスピーチなり差別的な言動を阻止するような条例をとるようにいっていますが、私たちは地域で、隣近所の人たちと上手くやっていきたいし、仲良くやっていきたいと思う反面、今、こういう問題も起こっていることに戸惑いのような不安も感じます。

○土屋会長

ありがとうございました。つづいて、カイン委員お願いします。

○カイン委員

私の話は、二アズ委員と一緒ですが、静岡市のイベントやお祭りについて、もっと外国人にも知らせてほしいです。また、どうやったら、そういうイベントに参加できるかがわからないです。静岡の大きい祭り

には、静岡祭りとか大道芸とかがあり、ボランティアスタッフを募集していそうだけど、どこにどうやって申し込んだらいいのか、誰に言えばいいかわからない。多分、私と同じように思っている外国人や留学生はけっこういると思います。

他には、地域ごとにやっている活動、例えば防災訓練とか、他にも何かやっていることがあれば、留学生にも、すすんで声をかけてほしいです。掲示板にあるイベントをみても、申し込み方法がわからないことがとても多い。日本語学校在学中は、時々、学校側から「こういうボランティアがあります」というお知らせがあったけど、大学ではそういうことがないです。私の考えでは、静岡のイベントなど、いろんな活動で外国人と日本人が一緒に企画できたら、お互いもっといいことがあると思います。そういう街になってほしいです。

○烏仁委員

静岡は、東京などの大きい都市に比べたら小さいと思いますが、大きな街ですよね。外国人の方が、清水の方では結構盛んに交流しているという話がありましたけど、私は静岡市内なので、あんまりそういうことがなく、そういう交流が少ないということは、まだまだ課題だと思います。私個人としてはボランティアとか、民間的な組織での活動が多いのですが、例えば静岡市国際国流協会とかが行っている、日本語支援とか、そういうことをもう少し形を変えてできたらいいな、と思います。方法として、例えばNPOとして起ち上げればある程度の予算が入ってきますよね。そういう団体と、静岡にはボランティアの方も多くいるので、それを活用して、公民館などでいろんな活動ができたらいいなと思います。公民館は、本当に地域、地域にあり、そこで日本語クラスみたいなのができたら、語学の支援と交流にも繋がります。そして、勉強した人がそういう情報を発信していくみたいなことができたら、とても効果的かなと感じます。自分の経験談ですが、アメリカのカリフォルニアに行ったことがあり、そこで短期間ですが、英語の勉強をしたくて探していたんです。どこが主催していたかはわからないんですが、公民館みたいなところで、地域の人々に無料で英語を教えているところがありました。その時は、子どもがいたから行けなかったんですが、歩いていける範囲内の距離に、子どもの面倒もみてくれ、それでいて無料のクラスが本当にいっぱいありました。そういうことを、この静岡でもできたらいいですね。そこで、ボランティアの方たちを活用できると思いますし、ボランティアの方もさらに活躍できるんじゃないかな。こういうシステムがあると、誰でも行けるので、そこでイベント情報を皆さんに知らせたり、いろんな宣伝ができるんじゃないかなと思います。そういう場をつくれたら、いろんな問題の解決にも繋がると思うんですよね。生涯学習施設とかは、日本人向きというか、町内会は日本人でも関わりが減っているくらいなので、外国人は全然知らない人も多いです。実際はあまり関わってないんですよね。なので、まず外国人が気軽に行けるところをつくり、そこを活用していろんな情報発信をしていけたらいいと思います。

○小田委員

朴委員が話したことについて、まさに南米人のニューカマーが今その状態にいるんですよね。日本に留まるのか、留まらないのか、という中で子どもが成長していき、その子どもたちが20代30代

で、さらに子どもが生まれ…となっています。南米人のことをいわせていただくと、国に一時戻っても、やっぱり日本に戻っていて、でも最終的に帰国するという道を選べないんです。死んでも、遺骨の状態でも帰りますっていっているんですよね。だけど、子供は朴さんがいったとおり、母国、民族意識も少ないし、自分の親の国もほとんど知らない、もう自分は日本人と思っているし、またそのアイデンティティの問題がたくさん出てくるんですよね。私が一番大切だと感じるのは、社会に溶け込めるようなきっかけです。コミュニケーションの問題もあれば、親密に付き合って溶け込むことができるような日本の文化や習慣などいい機会に触れる機会が、とても少ないと思います。例えば日本語講座へ行こうとしたら、日本語だけを覚える人もいます。でも実際は、生活をする中で、日本人と意思の疎通を図るとか、日本語、日本人を理解するとか、っていうことは、日本人と接していかないと、わからないんですよね。いろいろ考えてみると、例えばボランティアの方や大学生が、外国人の子どもと、ちょっと買い物に行ったり、ゲームをしたり、映画に行ったり、日本人と触れ合う機会が増えていくことで、少しずつ日本人を理解できていくと思います。そして、子どもが日本を理解していくことで、だんだん親も理解していくようになるんじゃないのかな。現実として、国際交流協会からイベントや支援について声をかけてもなかなか人が集まらない、ということがあります。私もブラジル人ですが、例えば防災訓練のお知らせをして、何度も何度も声をかけてもなかなか参加してくれないんですよね。だから「私も行くから一緒に行きましょう」というと、「じゃあ行きます」といってくれる。なので、少し長い目でみて、子供に色んな機会を設けながら、子供を育てていく中で、親もだんだん理解していくのかな、そういう機会を提供できたらいいなと思います。

あとは、情報についてです。ニアズ委員とカイン委員からあった静岡市ではどのようなことをやっているのか、ということについてですが、市の国際国流協会では、現在6言語で広報しずおかの原稿をピックアップしながら、出来るだけ共通した内容を選び、翻訳して PR しています。例えば大道芸への申し込み方法や、連絡先はどこなのか、静岡まつりについても同じです。各公民館や大学にも配布しています。

○ニアズ委員

それは知っていますけど、あくまでも国際交流協会のことがメインですよね。自分たち団体の活動やイベントが中心だと思うので。

○烏仁委員

静岡気分に載っている外国人に関係ある記事を選び、6言語に翻訳して、毎月発行しているんですよ。各公民館に配布されているし、生涯学習施設や大学、図書館にも配られていると思います。また、こうした公的機関だけでなく、例えばブラジルの雑貨屋さんがあった当時は、そこにも無料で配布したりとか、出来る範囲で広報はしています。でも、実際、公民館に外国人あまり来ないかもしれませんが。

○吉野委員

私たちは公民館で日本語を教えているので、先生たちが「SAME の情報誌」や「静岡気分」を持ってその人が必要としそうな情報を知らせています。

あと、経験談として、静岡まつりにシンガポールの人が参加したいということがありました。ダンスがすごく好きで、参加したいと言っていたんですね。で、体育館で練習があるじゃないですか、その練習に行ったら、やっぱり自分は団体に入れないと帰ってきて…、その子は一人で行っちゃったから。で、次のレッスンの時に「みんな団体で、実は入れなかった」という話をききました。「入れないんじゃなくて、自分は一人だけどどこかの団体に入れてくださいって言わなきゃだめよ。」と、伝えたんですね。そしたら、その子は、次にそのことを伝え、団体に入れてもらえたんです。だから、ダンスが好き、どうしても踊りたいっていう様な積極的な部分が外国人にあっても、なかなか日本人は声をかけたりすることができない。きっと入りたいんだなと思っても、見学に来ただけかもしれない、と思いなおしてしまうこともあるかもしれない。

○エリック委員

皆に発表していただいた話題からしたら、大した問題ではないんですが。私外国人の問題について考えると、日本語能力が足りないことによって引き起こされる問題が思い浮かびました。このような問題を解決するのには、日本語を勉強をするしか方法はないんですよね。なので、他の意見を集めるために日本で知り合った外国人たちに聞いてみたところ、ゴミの問題でした。小さい問題なんですが、外国と比較すると、日本はゴミに関するルールがとても多いです。あくまで、日本に来たばかりの外国人の話ですが、例えばごみ置き場とごみの分別については、ネットでいろいろ情報がみれますが、基本的に日本語しかないので、外国人は理解することができないと思います。そして、瓶と缶はいつ出すか、どこで収集されるかも問題にありました。そして、分からない場合にはどこに相談すればいいのか、誰に聞けばいいのか…とてもわかりづらい。ゴミの出し方の説明書が配布されるんですが、それは日本語しかないと思うので、そこで問題になってしまう。私が話を聞いた外国の方々は、ごみのルールを知らずに捨て、近所の人たちに迷惑をかけて、恥ずかしい体験をしている。例えば、私の友達が、ゴミをの出し方を間違えて、近所のおばあさんはゴミ袋を開き、彼のごみを取って適切なゴミ袋に入れて出した。それも何回もあったようです。最終的に、その人は自分でごみを出すことをやめました。私は、説明書を読んで彼に教えたんですが、彼自身もずっと自分で我慢していたみたい。日本にきたばかりの外国人の方には、積極的に生活する上での必要な情報提供をやっていただきたいと思います。そして日本語が分からない人の場合には、日本人と一緒に尋ねて、ごみのルールとか、出し方を確認していただきたいと思います。これはあくまで、日本に来たばかりの外国人という話ですが。

○烏仁委員

今の問題については、引っ越しなどの手続きは必ず市役所で行いますよね、その市役所には、多言語でゴミの出し方について翻訳されたものがあるので、それを必ず、一人一人に配るっていう

ことをしていてもらえれば、解決へつながると思います。

○エリック委員
　静岡市役所とかだったら、燃えるごみと燃えないごみの説明を詳しく行っているけど、近所の収集されているところが分からない。それは市役所に尋ねても、「川根町は○○の前に出してください」っていう情報はもらえないみたい。私は、隣の家の人に相談して、教えてもらったんだけど、私の友達みたいに、日本語がしゃべれない場合、聞くことが難しいです。

○烏仁委員
　それは大家さんとかが教えてくれたりしないんですか。

○エリック委員
　その友達は一人だと分からない、と。日本語が100％分からなかったから、恥ずかしくて聞けなかった。地図があって聞ければ良かったのですが、多分それが一番早く解決できると方法だと思うし、そのことを友達が一番言っていました。

○王川委員
　最近友達との会話の中ですごく気になっていたことがあります。友達二人とも50代中年の女性で、二人とも最近介護の仕事に転職したんです。転職した理由は、一人は今まで務めた工場が、景気が悪くなって、リストラというか、仕事がなくなって、ハローワークに通っていたんですね。ハローワークに通った時に職業訓練、ヘルパーの講座に通ってたんですね。そして、ヘルパー養成講座を終了し卒業後、自然に老人ホームを紹介されて、そのまま就職できた、ということでした。仕事をはじめて、自分には、その仕事が合っていたから、別の友達を紹介して、友達も一緒に勤めるようになった。
　もう一人の友達は、家に高齢のお母さんがいて、介護に対しては全く抵抗なく、ご飯を作ったり、あげたり、ということをずっとしていた。また、2人とも子育ても終わって、夜勤があってももう大丈夫で、2人ともその仕事に合っていたんです。今老人ホームは人が足りないと、色々問題になっています。逆に、今外国人たちは仕事を探している方で、50代60代の子育てが終わっている女性が多くいます。この2人がヘルパーになったきっかけは、無料のヘルパー養成講座です。今結構ありますよね。こういうところにも、行政には力を入れてほしいです。
　また先週中国人の春節の会で大勢の中国人が集まった時に、50代くらいの方で介護福祉士の資格取った話を聞きました。皆で「すごい。よく頑張ったね。」と話しましたが、その人は東京に行って勉強して資格を取ったようです。働きながら、家では93歳の姑の面倒を見て、勉強して資格を取った。高齢者はこれからもますます増えていくので、出来れば無料で養成講座が開かれ、外国人でも通えるような工夫があったらいいなと思いますし、そこに行政のサポートがるといいと思います。

○土屋会長

ありがとうございました。皆さんの声を聞いて、事務局はどうだったでしょうか。

○事務局

情報が欲しいけれども、なかなか手に入れることが出来ないということが、共通した話題としてありましたが、国際交流協会にしろ、私たち多文化共生課にしても多言語による情報をつくり、皆さんが行くと思われる公民館とか、大学とかに送っています。実際、できるだけ皆さんに広く届けたいなという思いはあるんですけど、どうしても情報を受ける側からすると、なかなか自分が探している情報が身近に無いとか、自分では探しているけど、実際に置いてないじゃないですか、というミスマッチが起こっている、そういうことをすごく感じます。そのため、情報を必要とする人に、必要な情報を提供するっていうのは、本当に難しいっていうことが、皆さんの声を聞いていて非常に感じました。外国人の中で情報を必要としている人たちの声を、しっかり聞き、情報の提供の仕方や、置き場所などを工夫する必要があるのだなと感じました。

○土屋会長

朴委員は、外国人の苦労というものがありますか。外国人としてはどういう問題がありますか。

○朴委員

僕は生まれてこの方、オールドカマーで日本に生まれ育っていますけど、日本人だなって思ったことは一度もないです。毎日コリアンだと思っています。

僕の妻も子供たちも、一日として日本人だと思ったことは一回もない。やっぱりテレビをつけても、ラジオを聞いても、「ああ、日本人じゃないんだな」といつも思うんです。

○鳥仁委員

ちなみに何世ですか？

○朴委員

僕は三世。

○土屋会長

それで、気持ちが落ち着かないの？

○朴委員

落ち着かない。ニューカマーの人達が今悩んでいるこの姿は、僕らはもう 100年前にもうやってきたわけです。中国人もそうですし、台湾人もそうですし。中華街の連中もそうです。要はああいう人達は、日本人の差別の中からどうやって暮らしていこうかと模索しながらやってきたんです。だか

ら僕が「言葉を覚えなさいよ」と再三言うのはそういうことです。

○土屋会長
　これは自分自身の問題ってことなんですね。それではどうやって解決していけば良いのでしょう。

○朴委員
　家庭教育とね、やっぱり学校教育ですね。あと、社会教育。その3つしかないんだけども。僕はやっぱりコリアンのコミュニティの中でいるので。チャイニーズはチャイニーズのコミュニティがあるし、フィリピーノはフィリピーノのコミュニティがあるし、ベトナムもみんなある。日本人だってコミュニティがある。コミュニティの中にいて、僕らは住んでいるため、尚更自分たちが日本人と違うのが良くわかる。だからニューカマーの人達がオールドカマーの人達に対して、「どういうつもりでいるのかな」という疑問をもっているだろうと思っています。

○土屋会長
　今まで寂しくなったことない？

○朴委員
　100年前に来ちゃったからどうしようもないよね。それを僕の孫に、お前寂しいだろと言っているのと同じだからね。そりゃしょうがないですよね。

○鳥仁委員
　外国（母国以外）にいる外国人って、3世ぐらいになると、そういう気持ちは消えるっていうけど。

○朴委員
　それは欧米だとか、北米もそうだし、さっきカリフォルニアの話がありましたけど、ロサンゼルスにはコリアンは何十万人も住んでいるんですよ。あそこにあるコミュニティには、僕の知人もいますけど、コリアンを喋っている連中は、コミュニティとして、アメリカという国籍を持っているけど、自分たちは韓国人だと思っています。多分3世4世ににになっていくと、だんだんアメリカ人っぽくなってきて分け分からなくなってくる。コリアンを忘れちゃう。英語しかしゃべれない。となると、3世くらいになると、完全にアメリカ人になっちゃう。それに比べて、僕はずっと（韓国のアイデンティティを）守っているので。ラングエージもそうですし。僕がニューカマーの人たちに、「日本語はちゃんと覚えろと。日本人よりもちゃんと覚えろ。その代りに自分たちの民族性は失っちゃいけないよ」と言いたい。これは一番後で言おうと思っていたので、今言わせていただきましたが。とにもかくにも日本語を覚えなさい。じゃないと話にならない。その後です。自分たちのアイデンティティがどうのこうのと、自分たちが何人なのか、ベトナムなのか、ミャンマーなのか、ブラジリアンなのかっていうのは後の事だと

思(おも)っています。今(いま)はこの場(ば)にいれて幸(しあわ)せです。ありがとうございました。

○土屋会長(つちやかいちょう)

色々(いろいろ)な意見(いけん)をありがとうございました。それでは、時間(じかん)になりましたので本日(ほんじつ)の議事(ぎじ)を終了(しゅうりょう)させていただきます。